

皮膚科

■ スタッフ

科長
副科長

山中 恵一
波部 幸司

医師数

常勤 15 名
併任 2 名
非常勤 8 名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 特色（県内皮膚病診療の砦として）

当科は皮膚に関連する疾患に対して幅広く診療・治療に当たっております。皮膚疾患は非常に多種類で、乾癬などの炎症性疾患、アトピー性皮膚炎や薬疹などのアレルギー性疾患、ニキビやとびひなどの感染症、強皮症や全身性エリテマトーデスなどの膠原病、天疱瘡などの自己免疫疾患、皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍、熱傷、脱毛症など多岐にわたります。他の医療施設より難治性患者様、重症患者様、既存の治療に抵抗性の患者様などを紹介いただき治療させていただき、皮膚疾患診療の砦として真摯に診療に取り組んでおります。

2. 主な診療対象疾患

1) 皮膚腫瘍

ほくろや表皮嚢腫といった皮膚良性腫瘍から、基底細胞癌、悪性黒色腫といった皮膚悪性腫瘍まで幅広く診療しています。治療は手術療法、放射線療法、化学療法、免疫療法など多岐に亘り、悪性黒色腫のセンチネルリンパ節生検を施行できる三重県内唯一の医療機関です。

2) 膠原病

皮膚筋炎、全身性エリテマトーデス、強皮症といった膠原病からベーチェット病などの類縁疾患も含めて幅広く診療しています。複数の臓器にわたり症状が出ますので、リウマチ・膠原病センターをはじめ、積極的に他科と連携しながら治療にあたります。

3) アレルギー

アトピー性皮膚炎、薬疹などのアレルギー患者様に対し、採血やパッチテストなどの原因精査、重症患者様に対しては免疫グロブリン療法や血漿交換などの集学的治療を行っています。

4) 乾癬

外用治療以外に免疫調節薬、光線療法、生物学的

製剤を用いた治療や膿疱性乾癬への顆粒球単球吸着除去療法を行っております。特に、生物学的製剤による治療は日本皮膚科学会認定施設でのみ施行可能であり、三重県内認定施設 5 施設のうちの一つです。

5) 自己免疫疾患

天疱瘡、類天疱瘡に対し、ステロイド内服および点滴、免疫調節薬内服、免疫グロブリン大量療法などにて治療しています。

6) 感染症

とびひや重篤な感染症まで様々な感染症の治療を行っております。

7) 脱毛症

難治性の症例に対して、多種の治療を行っております。

8) 血管腫、母斑

血管腫や母斑など保険診療対象疾患に、レーザー治療を行っています。Q スイッチルビーレーザー、ダイレーザーを設置している三重県内の数少ない機関の一つです。

■ 診療体制と実績

1) 入院診療

病床数は 23 床あり、水曜日が手術日です。各患者様に対し担当医が複数で担当し、さらに月・木に行われる回診や検討会を行い、皮膚科全体で診療にあっております。

2) 外来診療

月・火・木・金は初診及び再診患者の診療日で、予約制としています。再診外来は専門で分かれており、膠原病、アトピー性皮膚炎、皮膚リンパ腫、爪、脱毛症、アレルギー・薬疹、乾癬、腫瘍外来というように細分化しています。水曜日は完全予約制の外来手術および特殊外来日で、光線療法や生物学的製剤の注射療法を施行しています。金曜日の午後からはレーザー外来にて、保険治療の範囲で血管腫などの赤あざや太田母斑などの青あざの治療を行っています。

■ 診療内容の特色と治療実績

1. 主な手術

1) 皮膚腫瘍摘出術

悪性黒色腫、基底細胞癌、有棘細胞癌などの皮膚悪性腫瘍やほくろ、いぼに対して行っています。欠損した部分は縫縮の他に植皮や皮弁などを用いて整復します。

2) 熱傷手術

小範囲から広範囲の重症熱傷に対し、デブリドマ

ン、分層植皮術、自家培養表皮移植術などによる対応をしています。

3) センチネルリンパ節生検、リンパ節郭清

センチネルリンパ節生検は、悪性黒色腫に加えて、平成 30 年より有棘細胞癌（長径>2cm）とメルケル細胞癌にも保健適応が拡大しました。また、腋窩・鼠径のリンパ節病変に対するリンパ節郭清術も施行しています。

2. 主な治療

1) 薬物療法

遠隔転移を有する患者様や手術治療後の患者様に対する薬物療法などをガイドラインに準じて行っております。悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬療法も行っております。

2) 放射線療法

放射線治療が望ましい疾患、手術的治療困難な皮膚癌、術後の予防的放射線治療などを、放射線専門医と協力して治療にあたっております。

3) 生物学的製剤

尋常性乾癬、膿疱性乾癬や関節症性乾癬などに対し、近年開発され効果の非常に高い注射での治療を行っています。

4) 大量免疫グロブリン療法

患者様の免疫力を大きく減弱させることなく治療できる方法として近年皮膚疾患に対する適応が拡大しております。天疱瘡、皮膚筋炎などの自己免疫疾患及び、重症薬疹の一部に対して行っております。

5) 紫外線療法

乾癬、皮膚リンパ腫、尋常性白斑、脱毛などの患者様に対して、nB-UVB 療法、エキシマライト限局照射療法、ソラレンを併用した PUVA 療法等を施行しております。

6) 陰圧閉鎖療法

難治性の潰瘍患者様に対し、潰瘍面に陰圧をかけ血管新生などを促す治療を入院で行っております。

7) レーザー治療

単純性血管腫や扁平母斑など、医療保険の適応がある色素病変に対してレーザー機器を用いた治療を行っています。

8) 液体窒素冷凍療法

いぼや日光角化症などに対し、液体窒素を用いた冷凍療法を施行しています。

3. 診療実績

2016 年以降の皮膚科領域の手術施行例の推移を示します。

表 1 診療実績（入院手術）

年	2016	2017	2018
皮膚悪性腫瘍			
・悪性黒色腫	30	28	44
・基底細胞癌	50	49	43
・日光角化症	21	13	20
・有棘細胞癌	43	40	41
・Paget 病	12	15	14
皮膚良性腫瘍			
・表皮嚢腫	5	6	11
・色素性母斑	12	6	12
・脂腺母斑	7	5	4
熱傷	21	15	22

臨床研究等の実績

1. 痒み測定装置の開発、応用

掻く行為により生じる「音」から掻破回数を計測する装置を開発し、臨床研究を進めています。掻破行動を客観的かつ簡便に評価できることで皮膚疾患の診断・治療や患者教育、新薬の開発・評価の向上に努めたいと思います。

2. アレルギー疾患の治療法開発

アレルギー、湿疹病変に対する治療の向上のため、各種外用治療薬の剤形による、治療遂行性や患者満足度の調査、研究を行い、その結果を基に適切な外用薬選択と患者様の QOL の向上に役立てております。

3. 乾癬治療薬の効果と免疫系への影響

従来の乾癬治療薬や新しい生物学的製剤の使用が免疫系へ及ぼす影響を明らかにし、乾癬の病状改善の機序を解明してきました。患者、医師に対するアンケート調査を定期的に行い、治療の向上、QOL の向上に役立ててきました。

当科スタッフの取得専門医

日本皮膚科学会専門医	8 名
日本がん治療認定医	4 名
日本アレルギー学会専門医	3 名
日本熱傷学会専門医	1 名
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医	1 名
日本臨床微生物学会認定医	1 名

<http://www.mie-u.ac.jp/derma>